

平成21年4月15日

《よこしん》景気動向調査結果について —平成21年1～3月期実績、4～6月期予想—

横浜信用金庫（横浜市中区尾上町2-16-1 理事長 斎藤 寿臣）では、定例（四半期）の「景気動向調査」を実施いたしました。調査概要は以下のとおりです。

【業況判断D I】 業況判断は過去最低を更新、来期も厳しい業況を見込む
-43.8（前期） ⇒ -48.9（今期） 前期比5.1ポイント悪化

業況判断D Iは-48.9と、前期（-43.8）よりも5.1ポイント悪化し、前期に引き続き本調査開始（平成4年）以来最低のD I値を更新しました。業種別では、製造業が対前期で11.9ポイント悪化の-59.3、非製造業も1.7ポイント悪化の-43.7となりました。来期（4～6月期）の予想値は、-48.0とほぼ横ばいとなっており、厳しい業況は続きそうです。

【その他主要D I】

<売上額 D I> -37.6（前期） から -46.8（今期） へ 9.2ポイント悪化
<収益 D I> -41.6（前期） から -45.7（今期） へ 4.1ポイント悪化
<在庫 D I> 6.8（前期） から 11.0（今期） へ 4.2ポイント過剰感増加
<資金繰りD I> -27.3（前期） から -29.2（今期） へ 1.9ポイント悪化
<人手 D I> -1.5（前期） から 4.7（今期） へ 6.2ポイント過剰感増加

【特別調査：平成20年度の決算状況等について】

特別調査の「平成20年度の決算状況等について」では、平成20年度決算における前年度比売上額について、「減少」とする先が約6割、「ほぼ横ばい」が約3割、「増加」は約1割となりました。減少要因としては、「販売数量の減少」が約5割と多くなっています。前年度比当期利益については、「減少」とする先が約4割、「ほぼ横ばい」が約3割、「増加」は約1割となりました。また、「赤字転換、赤字の継続」となる先は約2割となっています。

<調査概要>

調査対象：当金庫取引先（法人・個人事業者）770先 有効回答数：735先
調査方法：各営業店職員による聞き取り調査 調査時期：平成21年3月上旬
その他詳細につきましては、別添の「YOKOSHIN BUSINESS INFORMATION」をご覧ください

たしかな明日のお手伝い



横浜信用金庫

神奈川・東京に60店舗